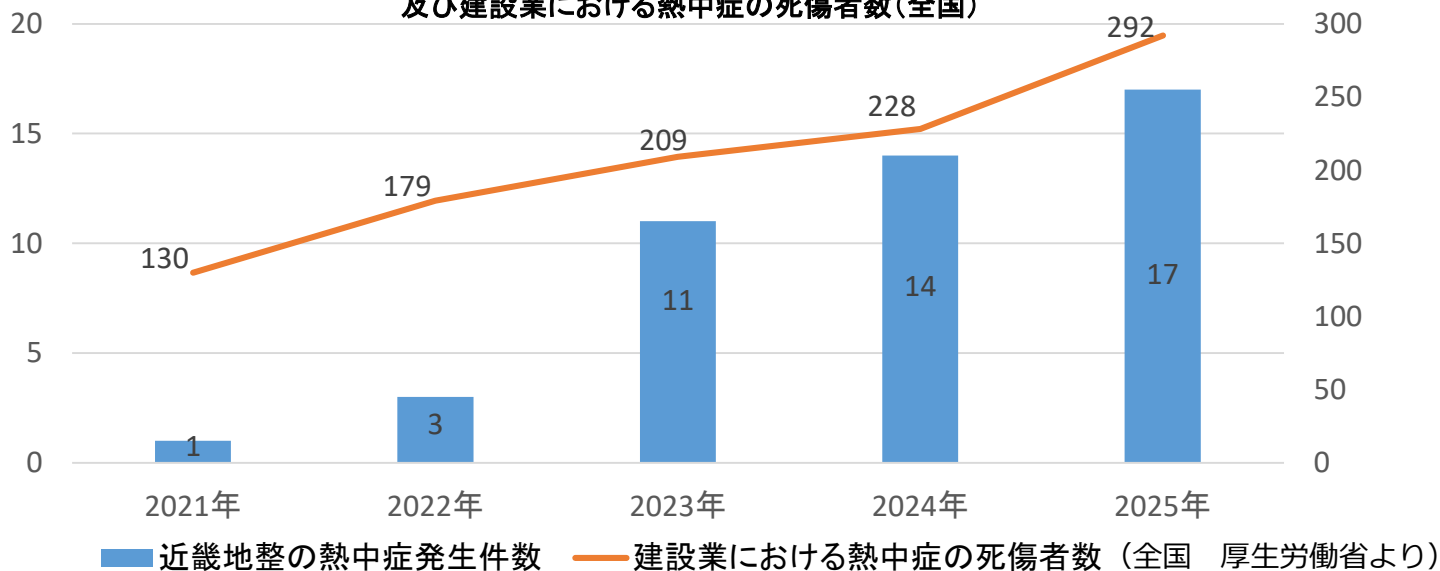


厳しい暑さの到来 熱中症対策は十分ですか

～ 熱中症による事故を防ぐため、今一度対策を見直しましょう～

近畿地方整備局管内の工事・業務における熱中症発生件数は、過去5ヶ年で増加傾向にあります。2025年度は過去5ヶ年で最多の17件となっています。

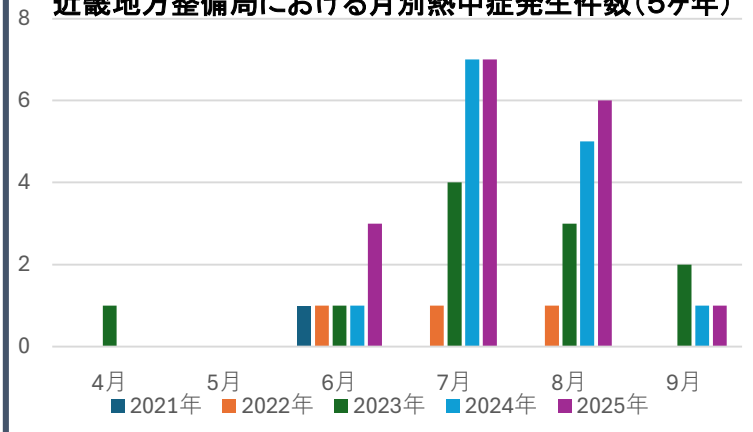
近畿地方整備局における熱中症発生件数の推移
及び建設業における熱中症の死傷者数(全国)



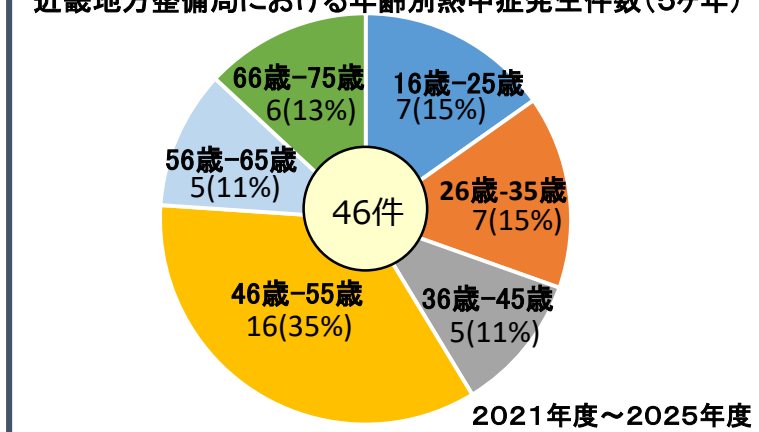
月別の熱中症発生件数をみると7月、8月に集中して発生しています。また、年齢別の熱中症発生件数をみると、どの年代でも発生しており、年齢を問わず注意が必要です。

今年の夏は平均気温が高い見込みです。十分に対策を講じ、熱中症による事故を防ぎましょう。

近畿地方整備局における月別熱中症発生件数(5ヶ年)



近畿地方整備局における年齢別熱中症発生件数(5ヶ年)



(令和7年6月1日) 労働安全衛生規制の一部改正

昨年度に労働安全規制の一部が改正されました。改めて以下の内容が実施されているかご確認ください。

●熱中症による事故に備え、

- ①報告するための体制(連絡先や担当者)
- ②緊急連絡網、緊急搬送先の連絡先及び所在地等
- ③熱中症による重篤化を防止するために必要な措置の実施手順等

の情報を、**事業場ごとにあらかじめ定め、関係作業者に対して周知**すること

👉 詳しくは、厚生労働省のリーフレットをご覧ください



【墜落事故防止】親綱を適切に使用できていますか

～ 高所作業中、作業員の墜落事故が発生～



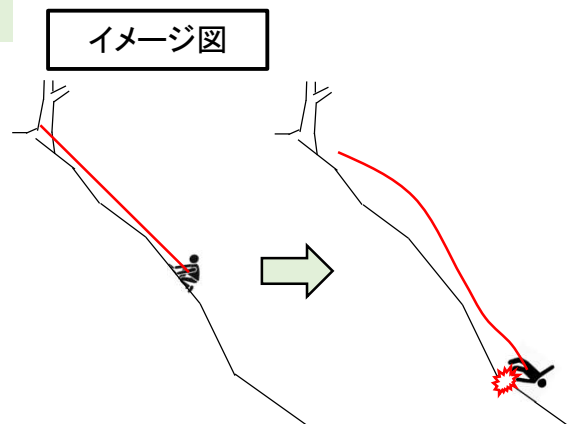
高所作業では、墜落の危険が伴います。墜落事故は死亡事故に繋がる可能性が高いため、対策や点検に十分注意を払うことで事故防止に取り組みましょう。

事件事例① 作業中親綱が解けた事で作業員が転落

【事故概要】 法面でのアンカー鉄筋打込孔削孔中において、被災者が吊り下がっていた親綱（法面上部の立木に結んであった）が親綱が不適切な方法で結ばれており解けた事で被災者は約6m法面伝いに転落した。

【主な要因】 親綱の結び方のチェックが不十分であった。

【再発防止策】 親綱の点検方法について見直しを実施する。
関係作業員全員に再教育を実施する。

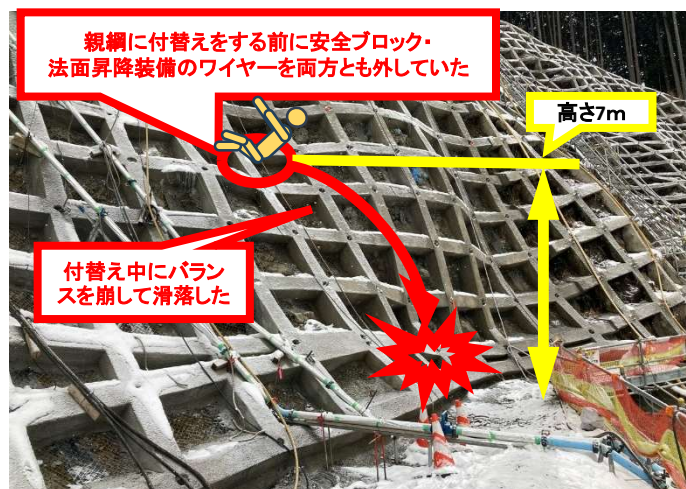


事件事例② 親綱付替え中にバランスを崩し滑落

【事故概要】 作業員が斜面作業を終えて、斜面上でワイヤーを親綱に付替える際に、付替える前に使用していたワイヤーと安全ブロックを外してしまい、親綱付替え時にバランスを崩して約7m滑落した。

【主な要因】 誤って法面昇降設備のワイヤーと安全ブロックの両方を外してしまった。

【再発防止策】 作業手順書を改善する。
作業員に再教育を実施する。



墜落制止用器具の点検等は適切に行われていますか？

- 点検は責任者を定め、点検結果などを記録しましょう。
- 点検は日常点検のほかに定期点検を行きましょう。また、点検の間隔は半年を超えないようにしましょう。

主な点検内容

ベルト等の摩擦、傷、ねじれ、硬化・溶解、金具類の亀裂、変形、錆、腐食、ロック機能が正常に作動するか等

- 墜落制止用器具は次のような場所に保管しましょう。
 - ①直射日光が当たらない所
 - ②風通しがよく、湿気のない所
 - ③火気、放熱体等が近くでない所
 - ④腐食性物質が近くでない所
 - ⑤ほこりが散りにくい所
 - ⑥ねずみの入らない所
- 墜落制止用器具の廃棄基準を守りましょう。
 - ①一度でも落下時の衝撃がかかったものは使用しない
 - ②点検の結果、異常があったもの、摩擦・傷等の劣化が激しいものは使用しない

※「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000212834.html>



日々の点検が事故を防ぐことに繋がります。点検者、点検頻度、点検方法等を明確にしておきましょう。また、親綱等の器具の使用方法を十分に教育・周知しましょう。